

総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価

**「イネゲノム機能解析研究」の  
事後評価結果  
(案)**

**平成21年4月21日  
総合科学技術会議**

# 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の事後評価

## 事後評価の実施

- 事前評価を実施した研究開発を対象  
(国費総額約300億円以上など)

## 事後評価結果

実施府省の事後評価結果等を踏まえ、

- 成果と目標達成状況の確認
- 波及効果、マネジメントの妥当性などの見極め

について、評価専門調査会において調査検討

## 事後評価結果の活用

- 施策への成果の有効活用
- 今後の研究開発の推進体制整備など

総合科学技術会議決定後、  
実施府省に通知

## イネゲノム機能解析研究(農林水産省)の事後評価結果の概要

- 総合科学技術会議の事前評価(H14.12)
- 研究開発の実施(H15～19年度、12個別課題)
- 農林水産省は個別課題ごとにH19年度までの事後評価を実施

- 個別課題ごとに目標を十分に達成し、多くの研究成果が得られた
- 成果の農林水産政策への活用には、「特許戦略の策定」、「海外競争状況の把握」、「遺伝子組換え作物の国民理解への取組強化」などが課題
- 今後の研究開発について、成果の政策への活用等に関する検証・評価の実施などが課題

農林水産省は成果活用へ  
早急な取組み強化が必要

政策対応型の大規模な  
研究開発の共通課題

- 成果の政策への戦略的活用
- 研究開発全体についての評価等を適切に実施
- 政策と個別課題を整合する全体運営管理

# 研究開発の概要(参考)

## ●評価の位置付け

- 内閣府設置法に基づき、総合科学技術会議は国家的に重要な研究開発について評価を実施
- 国費総額が約300億円以上の大規模新規研究開発について事前評価を実施し、その終了後に事後評価を実施（事後評価は今回が初回）
- 評価結果を関係大臣に通知し、研究開発の効果的・効率的な遂行を促進

## ●研究開発の名称： イネゲノム機能解析研究

- 研究開発、イネの重要な形質に関わる多数の有用遺伝子の機能等を解析することにより、イネの新品種開発や新植物産業創出を目指す研究開発。（個別の12課題を実施）

## ●実施府省： 農林水産省

## ●実施期間： 平成15年度から平成19年度までの5年間

## ●予算額（国費総額）： 当初計画約450億円、実績約142億円。

## ●受託研究機関： 独立行政法人農業生物資源研究所 など